

News Letter

■2015年4月3日発行 ■編集・発行／三重大学高等教育創造開発センター

授業科目でPBLを導入する教員へ教材開発費・授業開発費を支援する「PBL教育支援プログラム」に、本年度は10件が採択されました。本号では、シリーズ第2回として、後藤綾文先生(学生総合支援センター)の「AI-人と組織を生かす発想法-」におけるPBL教育の実践報告を掲載します。

2014年度開講 「PBL教育支援プログラム: 振り返りの工夫」成果報告 (2)

「 AI-人と組織を生かす発想法- 」

① 授業概要

“AI-人と組織を生かす発想法-”は共通教育における主題I「生きる力とキャリア形成」に位置する通常科目です。アプリシエーティヴ・インクワイアリー(以下AI)とは、アメリカを中心に実践されています。基本として「問題」に目を向ける以上にすである「強み」に目を向ける、この肯定的な思考法を体験的に学ぶことを目的とした演習形式の科目です。

② 授業の目標

①AIの思考法を理解し、肯定的な視点から、「三重大学をより良くするには」について考えることができること、②グループ毎に三重大学をよりよくするアイデアを検討していく中で、三重大学の強みについて目を向け、そのアイデアを実践するために自分たちができることなどを考えることができること、③グループ活動を通じて、お互いの意見を尊重し、調整し、一つにまとめていくなどの社会人として求められる力を養うことができること、の3点を目標にしました。

③ 授業の進め方とねらい

本授業は、「三重大学をより良くするには」というPBL課題に対し、AIの思考法を用いて、グループでどのように解決していくかを検討する内容となっています。授業は、大きく4つのグループワークから構成されています。一つ目のグループワークは、三重大学の可能性を見出し、すでに三重大学にある「強み」を発見します。二つ目は、三重大学の肯定的な資質がさらに開花した、3年後の理想の三重大学を想像します。

三つ目は、理想の三重大学の状態を文章化して、グループで共有します。四つ目は、理想の三重大学の達成のために、必要と考えられるプロジェクトを計画・立案します。すべてのグループワークを、模造紙に絵や図、文章でまとめ、口頭発表するという形で展開しています。このように、AIという思考法を用い、協働的に目標を達成すること、課題を解決することをグループワークを通して実践的に学びます。

PBL課題として、「三重大学をより良くするには」を挙げた理由は、2つあります。まず、三重大学に入学した学生自身が三重大学の強みを改めて発見することで、三重大学への愛校心を高めることができると考えます。そして、理想の三重大学の姿、その中で過ごす三重大生の姿をグループで議論することを通して、三重大学を作っていくのは学生自身であることを意識させることもできると考えます。三重大学のために、学生自身のために、自分自身から動き出すことのできる学生に成長してくれることを目指しています。

④ 実際の授業の内容

・導入

AIの思考法は、学生にとって新しい思考法です。方法に慣れるために、授業の前半第1回から第4回まで、AIについて概論的講義を行いました。講義後には、これまで生きてきた中で、「他者からの学んだ最高の経験」、これまで受講した三重大学の授業の中で、「授業から学んだ最高の経験」、これまで過ごしてきた中で、「三重大学での最高の経験」等、経験してきた事柄の肯定的な側面に注目するというペアワークを毎回行いました。さらに、

経験してきた事柄を肯定的に捉えることのできた、自分自身の強みにも注目させるペアワークを行いました。このように、授業前半では、身近な事柄をAIの思考法を用いて考えさせました。

授業外学習として、ペアワークのふりかえりや、授業を履修していない学生と、授業で行ったペアワークを取り組んでくる課題を与え、学習の理解が深まる工夫をしました。

・グループワーク

第5回より、グループを編成しました。学生は、AIの思考法に沿いながら、先述した4つのグループワークを行いました。三重大学の強みとして、学生たちは図書館や環境情報科学館など学習する施設が整っていること、語学学習の機会がいくつもあり、多くの留学生と関わることができること、先輩とのつながりや他大学とのつながりが強く、様々な考え方を学ぶこと、自然が多いことなどを挙げました。そして、最終的には、2007年に理想の三重大学であるために、5学部が連携して三重県の特産物を売り出したり、商品開発をしたりして地域に売り出すプロジェクトや、キャンパスペイによる募金システムを構築して海外に募金するプロジェクト、2020年のオリンピックに向けて、5学部が各学部の特徴を活かして協力するプロジェクトなどが発表されました(図1)。

4つのグループワークのあとには、特に時間をかけてふりかえりを行いました。ふりかえりの項目は、①自分がグループの中で貢献できたところは何か、②グループの仲間がグループの中で貢献してくれたところは何か、③自分のグループの強みは何か、④他グループの強みは何か、⑤今後の発表で活かしたい点は何か、以上5点です。AIという肯定的な側面に注目する思考法を実践する授業の中で、ふりかえり項目もグループワークの肯定的な側面に注目させる内容にしたことが特徴です。そして、このふりかえり内容をグループでまとめて発表させることで、他グループともふりかえり内容を共有しました。

このふりかえりによって、今後のグループ活動、発表に対する態度の涵養を目指しました。

・最終回

①AIという思考法を学び、何をすることができたか(思考の変化があったか)、②グループワークを通して何をすることができたか、③共通教育における主題「生きる力とキャリア形成」の科目の一つとして、なぜこの思考法を学んでほしいと授業者が考えたか、以上3点についてふりかえらせました。

成果

グループワークを進める際に、学生それぞれの強みを活かしている様子が見られました。最終回のふりかえりでは、学生から、AIを学んだことで日常生活でも物事の肯定的な側面を見るようになったこと、自分自身についても悩んだり落ち込んだりすることが少なくなったこと、グループワークを通して、様々な考え方に触れることができ、自分一人では思いつかないアイデアが出る経験ができたこと等が挙げられました。本授業での経験が、社会で必要とされるだろうチームでの課題解決力の育成、さらには三重大学への愛校心の育成につながっていくことを期待しています。

(後藤 綾文)



図1 活動の様子